

「学生が互いに啓発しあう教育とは」

(報告・司会) 鶴飼孝造

1 「教育学的想像力」の貧困 ——かつて大学は夢を売る場所だった——

- ・ だが、教師とは自分が教わったやり方の外側に出られないものなのか
余所者の教育個人史・・・教養教育 (= 導入教育?) をめぐって
ポスト全共闘の焼け跡・闇市派として 大学の大衆化と郊外化の中で
 - ・ 石橋の上にも三年→千里シベリア流刑地 「一粒で二度おいしい」
甲田和衛さんの1学年100名、文理融合「旧制高校」モデル
 - ・ 北大方式 教養部と学部の「仁義なき戦い」 リベラルって教養なの?
「学部・大学院で教えたかったら、教養で学生を集めてきなさい」
 - ・ 平生さんの夢 岡本パブリック・スクール 「人が集まる紳士たれ」
クラス担任制、2年次の全学副専攻制度、チーム・ティーチング
 - ・ 田辺から今出川 (実は新町) 統合へ 野放しの後の3カ月の夢、かあ・・・
- ・ いざ「四年一貫教育」(導入→基礎→創造) と言ってはみたものの・・・
 - ・ 新町四年生たちによる「田辺は良かったよね」論 「イマデは窮屈や」
 - ・ スペースや校舎よりも、大学にはスキマ (解放区) がほしい
 - ・ 学生には、「一貫」 (= 連続性) ではなく、実は断絶 (通過儀礼) が必要だ
就活でやっと目覚めて、4年生秋学期から聴講に励む学生たち、
 - ・ 重点化・高度専門化と言ってきたけれど、4年間の教養化がトレンドかも
基礎学力、表現 (語学) 力、問題提起力への社会的要請
- ・ そこで、相互チューター制を考えて、やってみました
 - ・ 石田先生の言葉「大学で学問するって、カッコいいことだったんだよね」
 - ・ 沖田先生の言葉「寺子屋の先生は座っているだけ。上の子が教えていた」
 - ・ いまの学生は、驚くほどタテのコミュニケーション回路がない (KY文化)
チューター制の中で、下の学年に教えたい話したい学生を一定数発見
また、1年生にとって、上級生は教員よりもずっと話を聞きたい存在
 - ・ チューター制は、きっかけをつくる制度に過ぎない (実験的アルバイト制)
今後、どのように脱制度化をはかり、社会学部の教育に活かしていくか。

2 5 学科体制は独立王国か ——存続選択なら一層の個性化を——

GP の共同実施を通じて、むしろ各学科の個性が明確になりました。

ここでは、各学科の先生がたから GP 実施の感想と体験談をいただきます。

3 さらなるエビデンスが必要 です ——形式・管理主義を超えて——

・量的・質的ともに、教育の充実のためにデータが不可欠

1) 相互チュータリング・システム

正直なところ、あまりうまく機能しなかった。面倒くさい、かな
ただし、チューターが授業の最も厳しい批評者だということはわかった。
また、嘱託講師の先生にとっては有効な連絡ツールになった。

2) 卒論データベース

受験生をはじめ、学外の人が学部学科の教育内容を知る情報源に
1～2年生にとっては、ゼミ選択や自分の研究テーマを決める材料に
本格的なデータベース化をはかるために、文献リンクなど工夫の余地あり

3) 教育 GP のホームページ

意外な人から「見ましたよ」とよく言われた。学部・学科あるいはゼミの
イベントを広報するものとして有効だったと思う（自画自賛）。

4) 卒業生アンケート調査

毎年の卒業式に学部の全卒業生の9割が回答するアンケートは稀では。
特に、入学のあり方（アドミッション）、教育内容（カリキュラム）、卒業
後の進路の相互関係を分析できる貴重なデータになった。

- ・ 入学：男女比、出身地、自宅下宿、内部生か一般入試か、第一志望か
 - ・ 学部：授業への参加態度、課外活動、アルバイト、資格
 - ・ 進路：就職活動の実態、職種、志望理由
 - ・ 4年間の教育への評価：充実度、満足度、良かったこと、改善すべき点
- 各学科の特徴は明らかになったものの、肝心のカリキュラムの特徴は曖昧

5) 社会学部および各学科が学生に伝えたいコアな価値は何か

それを伝えるためには、学部生だけでなく、大学院生も加えた体制が必要
研究とともに、大学での教育についての問題意識を育てていく。